

社会福祉法人あおぞらつぐみ福祉会

令和6年度事業計画

令和3年度からの3年間、理事長をはじめとする要職の大幅な交代に伴い、あおぞらつぐみ福祉会は法人のあり様を大きく変貌させてきた。停滞していた事業所の錆を落とし、エンジンを稼働させるべく努めてきたが、まだ改善の途上にある。

ここ数年来コロナ等の影響で、利用者にとっても事業所にとっても厳しい状況下に置かれてきたが、今年度は報酬改正の年でもあり、福祉のありかたがさらに一段と様変わりしていく。このような歴史的にも重要な年度にあって、あおぞらつぐみ福祉会は本来あるべき福祉の形を追求し、福祉法人の存在意義を再確認していく事が責務であると考えている。

その点をふまえつつ、今年度は以下の8つを事業計画の柱としていく。

① 経営基盤の安定化をはかる。

運転資金最低3000万円の確保と更なる事業発展のための資金の確保に努める。特に、利用者にとって魅力的な事業所を追求する事によって、安定的な報酬の確保を目指す。具体策として

- 利用者家族の要求に応える実践を進めつつ、報酬アップにつなげる。
 - ・土曜開所を第1, 3の月2回に増やす。
 - ・ショートステイの要望に応えつつ、効率の良い運営をおこなう。
- 関係諸機関への働きかけを行い、新規の入所者を増やす。
- 寄付金活動やクラウドファンディング等の活用を積極的に推進する。
- 感染予防対策の徹底により、クラスター発生を食い止める。
- 介護報酬の改正に向けて対策と対応は遅滞なく進めていく。
- 事業活動の中であらゆる無駄をなくすよう全職員が努めていく。

② 実践の飛躍的レベルアップ

- 職員のスキルアップ(人権意識に裏打ちされた実践、社会人としての資質向上)
- 職員の資格取得を積極的に応援する(サビ管、介護福祉士、社会福祉士、強度行動障害研修)
- 利用者の日課、週課を、更に実りあるものにする(主人公として達成感、充実感を持てる毎日)
- 利用者の低工賃の打開(生活介護だから給料が低くてもいい、ではない)利用者の給料ランクの検討。ほたるの空いた土地の利用方法を検討する。

- ③ あおぞらつぐみの家、ほたる、ショートステイの3事業所の連携の強化
- 職員の入れ替え実践を相当日数行い、全ての職員がいずれの事業所でも対応可能な力をつけていくことで、コロナ等の不測の事態にあっても柔軟に安定した運営ができるような協力体制をつくる。
- ④ 組織の構築と役割の明確化
- 全員が何らかの役割をもち、法人の支え手となり、法人の発展に寄与する。
 - チームリーダー制により、現場職員からの意見、情報を吸い上げつつ、管理者、リーダーの合同会議にて的確に状況を分析、適切な判断を下して事業を展開していく。
- ⑤ 開かれた法人組織により、経営力を強化
- 社会福祉経営全国会議等に参加し、経営陣が情勢を正しくつかみ、適切に対応できる力をつける。
 - 市の施設連絡会に参加し、連携をはかりながら市の福祉発展に寄与する。
 - きょうされんを通じてイベント活動や研修などに参加し、連携を密にしていく。
 - 理事会及び評議委員会に、他法人からも入っていただき、広い視野と見識をもって運営できるようにする。
 - 広報活動に力を入れ、滞りなく地域に新しい情報を発信していく。
- ⑥ コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化
- 事業を運営していくうえで、遵守しなければならない法令及びルール・規定を守り適正な業務運営を行う。また、内部管理体制を強化して事業の透明性を図る。
- ⑦ 昨年に引き続き、将来計画会議を定期的で開催し、将来構想を練っていく。とりわけ今年度は1つ目のGHの開所を目指し、具体化をはかる。
- ⑧ 家族会、後援会との協力関係を強めるとともに、積極的に地域とのつながりを築いていく。